

# 平成29年度 自己点検・自己評価報告書

自己点検・評価対象期間

自 平成29年4月1日

至 平成30年3月31日

平成30年5月25日



## 平成 29 年度 自己点検・評価について

自己点検・自己評価の目的は、学校の教職員自らが定期的に学校を点検評価し、学校運営並びに教育活動の改善、質の向上を図ることにある。本校では、平成 20 年度より自己点検評価を続けてきた。平成 23 年度より、特定非営利法人「私立専門学校等評価研究機構 専門学校等評価基準」の点検項目を基に実施し、各項目に対し「適切」「ほぼ適切」「やや不適切」「不適切」の 4 段階の評価点をつけている。

この報告書は、第 2 回学校関係者評価委員会（H27/06/29 実施）の意見を取入れ、点検中項目の現状、評価、状態と、点検中項目に対する課題・方策の内容、状態、成果・効果をまとめたものである。現状の状態は、評価点が 4 点未満の項目を改善の必要ありとして「要改」、「要改」項目の評価点が 4 点となった場合は「改善」、前回から引き続き 4 点の項目は「維持」とし、すでに「維持（評価 4 点）」の状態であるが、更に発展した項目は「進化」とした。

また、課題・方策の状態は、新しく追加されたものは「新規」、前年度より継続しているものは「継続」と表記している。

平成29年度の自己評価点は昨年と同じ3.83となった。引き続き概ね適切と評価できる。全評価47項目の内、「進化」が6項目、「維持」が28項目、「改善」が1項目、「要改」は12項目の状態であり、74%が適切項目である。「進化」や「改善」となった。それぞれの項目の内容を見ると、精度向上に注力した成果が表れており、今後の本校教育活動の質向上に繋がるものである。残念ながら重点課題とした各項目は、「平成29年度重点課題対応結果」に記述した通り、思うような成果を上げることができなかった。しかし、単年度に終了するものとせず、継続課題として取り組んでいきたい。平成30年度以降の学校方針は「実績の積み上げ」である。今後、各部署毎の目標達成に向けた活動の成果が、この自己評価点に現れてくるものと期待する。平成30年度も、各項目の状態を確認・検証し、「学校運営並びに教育活動の改善、質の向上」のために、教職員全員で改善活動を継続して進めていかなければならない。

## 平成29年度 基準大項目評価点

基準大項目 1	教育理念・目的・育成人材像等	【4.00】
基準大項目 2	学校運営	【3.94】
基準大項目 3	教育活動	【3.92】
基準大項目 4	教育成果	【3.62】
基準大項目 5	学生支援	【3.89】
基準大項目 6	教育環境	【4.00】
基準大項目 7	学生の募集と受け入れ	【3.81】
基準大項目 8	財務	【4.00】
基準大項目 9	法令等の遵守	【3.87】
基準大項目 10	社会貢献	【3.30】
	基準大項目平均値	【3.83】

※ 評価点は、4 (適切)、3 (ほぼ適切)、2 (やや不適切)、1 (不適切)、NA (No Answer)としている。

## 平成 29 年度 重点課題対応結果

重点課題1 早期のケアにより退学者・休学者の低減をはかる

対応結果： 平成 29 年度においても、早期のケアを意識して退学者の低減をはかってきたが、休学中の学生もいたため、退学者の低減をはかることは難しかった。とくに一般学生においては、技術や学力の部分で周囲との差を感じ、退学や休学に至るケースがあり、それに伴い進路変更をしたいという相談もあった。今後の課題として、メンタルタフネスが弱い学生たちの支援をいかにして行っていくたら良いか、新たな対応策が必要である。検証の結果、学校行事に不参加の学生や欠席が続いている学生は退学につながりやすいので、個別面談の回数を増やし、気になる学生がいる場合は保護者を呼んで早めに面談するなど、引き続き早期のケアを行っていきたい。国際情報ビジネス学科の留学生については、本校入学前の出席状況により、ビザ更新が不許可になり帰国せざるを得なかった学生や、ビザ更新後に本来の留学目的から

就労目的に変わり、音信不通になってしまい除籍となった学生もいた。対策としては、入学選考時に明確な留学目的の有無を確認することと、安易な方向に流れないように、本校カリキュラムの有効性等を個別面談等を通して指導をしていく。

**重点課題 2 「他校に誇れる実績」作りの推進（業界就職、学びと成果としての社会貢献を含む）**

**対応結果：** 情報処理学科においては、事業計画で目標としていた外部コンテストの入賞を果たすことができた。ゲームクリエイター学科とデザイン学科においては、職業実践専門課程で指導いただいている連携企業から「少しずつ学生たちの作品の質があがっている」という評価をいただいた。国際情報ビジネス学科の留学生については、日本語力の強化とともに、1年次から IT コースとビジネスコースの2コースを設置し、就職につながる専門教育に力を入れた。しかし、これらの実績を外部にうまく広報できていない点もあり、まずは内部からしっかり情報をあげ、広報につなげていく必要がある。また、地域活性化プロジェクトは今年度で3年目に入り、地域とのコラボミーティングを継続的に行い、学生が学んだ技術を活かしポスター制作や地区のキャラクターコンテストのデジタルデータの作成などを行った。横浜市西区活動報告において、本校の学生たちが協力したことを紹介してもらうことができた。平成 30 年度においては、事業計画であげた「実績のつみあげ」を各部署遂行していく。

**重点課題 3 本校としてのキャリア教育(技術力・人間力を含む)の評価基準を明確にしてパーソナルデータベースを活用する。本校としてのキャリア教育の定義：社会に出たときに必要な能力**

**対応結果：** 本校としてのキャリア教育を定義し、挨拶やビジネスマナーなど社会人として必要な能力を実践的に身につけることができるよう研修や指導を行った。また入学時から卒業まで日々の生活の中で ID カードの着用や返事の仕方および言葉使いなど意識して指導した。

パーソナルデータベースについては、人間力と技術力の軸を明確にし、サンプル数値の共有化をはかりデータを蓄積した。

引き続き学生指導と教育力の検証ツールとして、平成 30 年度中に学生指導システム機能を完成させ、活用できるようにしていく。

平成29年度 アーツカレッジヨコハマ 自己点検・評価報告書

基準大項目1 教育理念・目的・教育人材像等

点検・評価項目(中項目)	現状の説明	評価	状態	課題・方策		成果/効果
				内容	状態	
① 理念・目的・育人人材像は定められているか	現在の教育理念は、平成18年からのものであり今年度で12年目となる。内外ともに本校の役割、理念、教育システム、スローガンを公表周知している。本校の教育理念・目的は、本校(専門学校)の学生に対する役割を基に考えられたものであり、その役割は時代の変化とともに急激な変化をするものではないと考える。しかし、育成すべき人材像の変化は速いものと理解している。今後も、時代の要請に応じた人材育成のために、学科、教育編成、教育方法を適宜見直ししていくことが肝要である。	4.00	維持	・教職員、学生、保護者等本校関係者すべての理解が必要であり、周知を続けていく。 ・時代の要請に応じた人材育成のために、学科、教育編成、教育方法を適宜見直ししていく。	継続	
② 学校の特徴は何か	IT技術を基盤とし、ゲームクリエイター学科、デザイン学科、情報処理学科、国際情報ビジネス学科、実践研究学科の5学科で構成した専門学校である。また、自律した社会人になるための学校として、専門教育と人間教育を両輪とした教育内容であり、学生一人ひとりの強みと特性を伸ばすための「育てる教育(パーソナルプロデュース)」を教育方針として展開しているのが特徴である。また、留学生に対して、日本企業で働く上で必要となる日本文化教育を重要としてカリキュラムを展開している。	4.00	維持	・「一人ひとりを育てる教育」をパーソナルプロデュースとして実践していく。 ・日本企業で働く上で必要となる日本文化教育の実践。	継続	・知識、技術、人間力を測るための評価軸の作成 ・学生データの収集
③ 学校の将来構想を抱えているか	時代の要請と本校のノウハウ等を念頭に、ITを基盤とした、質の高い技術者・クリエイターを養成する専門職学校の確立を目指していく。平成26年度からの取り組みは、専門職養成としての各学科教育の確立である。教育の根幹の再認識(教養教育)を、そしてそれを実現するための教育方法の確立である。この育てる教育の上に、企業と連携したカリキュラムによる人材育成、留学生には日本の企業で働くために大切な心の基礎となる、日本文化教育の確立を目指している。	4.00	維持			
		平均値				
		4.00				

基準大項目2 学校運営

点検・評価項目(中項目)	現状の説明	評価	状態	課題・方策		成果/効果
				内容	状態	
① 運営方針は定められているか	目的は、本校が存在する意味であり、目標は達成のための指標であり、方針はそれをどのような方法で行っていくかである。教職員全員が目的、目標、方針の違いを認識し、本校におけるそれぞれの内容をしっかり理解したうえで学校運営を進めなければならない。H26年度より、教職員全員に対し個人毎の面談を行い理解のずれを調整し、運営を進めている。また、就業規則等の各種規定は必要に応じ改定し整備している。	4.00	維持	・労働契約法改正(H25年施行)による無期雇用転換制度に対応した有期雇用、無期雇用就業規則を整備する。	新規	・有期雇用就業規則作成 ・無期雇用就業規則作成
② 事業計画は定められているか	毎年度実施する事業計画発表会において、事業計画の達成度と次年度以降の事業計画を確認している。学校の方針等は、単年度のものだけでなく、継続して実施すべきものも含まれ、結果および計画は、毎年度理事会、評議員会で報告し承認を得ている。	4.00	維持	・毎年度3月に事業計画発表会を実施する。	継続	・H29年度事業計画書
③ 運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか	理事会、評議員会は定期的、必要においては臨時に開催し、重要事項の審議を行っている。職業実践専門課程申請に伴い、運営組織に学校関係者評価委員会、各学科の編成委員会等を新たに追加し運営をした。また、平成26年度より学校運営会議の時間短縮化、ペーパーレス化を実施し、会議運営の効率化を図っている。平成28年度より学校運営会議の上位会議として、経営会議を設置した。	4.00	維持			
④ 人事や資金での処遇に関する制度は整備されているか	平成26年度より、年2回実施していた教職員個人面談を年3回にふやし、教職員各人の役割、ミッションを明確にした上で達成度を評価する人事考課制度を整えた。これにより、従来の面談ではできなかった賞与、昇給、昇格との運動ができるようになった。	3.66	要改	・役職制度、人事考課制度の検証と改定。 ・欠員教職員の求人	継続	・教員1名採用
⑤ 意思決定システムは確立されているか	各事業の起案は各部署の責任において行われ、必要において各部署会議、学校運営会議等で協議された後、理事長、校長の承認を得て確定事項となる。重要案件は理事会の承認を得ている。平成28年度より学校運営会議の上位会議として、経営会議を設置した。	4.00	維持			
⑥ 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	学生管理システム、学生募集システム、学校会計システム及び各部署日常業務のほとんどはパソコンを活用して行われ、業務の効率化を図っている。また、学校内サーバーとは別に、学校運営会議や、校長と部署間に必要な資料、データ等をクラウド化して共有している。	4.00	維持	・学生増員、セキュリティ強化を考慮した学内LANを整備する。	新規	
		平均値				
		3.94				

基準大項目3 教育活動

点検・評価項目(中項目)	現状の説明	評価	状態	課題・方策		成果/効果
				内容	状態	
① 各学科の教育目標・育人人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか	職業実践専門課程の取り組みの中で、年間2回の教育課程編成委員会を実施し、業界のニーズに合わせたカリキュラムの作成ができるようになった。また教育目標や育人人材像をより明確にし、到達目標を決めることができるようになった。	4.00	維持			
② 修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか	各学科主任が中心となり、年間の事業計画を作成し、業界で活躍するのに必要な専門知識・資格や技術を考慮した到達目標が掲げられ、育成に必要な修業年数を考えた学科運営をしている。目標に対する到達度は、事業計画に基づき各学期と年度末に学科主任が結果の振り返りと検証を行い次年度に活かしている。	4.00	維持			
③ カリキュラムは体系的に編成されているか	学校の教育方針である「一人ひとりを教養育てる」という視点に立ち、カリキュラムの作成を行っている。また職業実践専門課程の教育課程編成委員会をあげられたカリキュラムに対する意見を取り入れ、業界のニーズを反映させたものとなっている。各学科、年間で事業計画を作成しており、カリキュラムは、学科の授業、参加する学外イベントなどが時系列で記され、1つ1つの内容がつながりを持ち、技術的、人間的にどのように成長するのかが理解できるものとなっている。	4.00	進化	・企業連携講座で学生の技術の評価をもらい、技術力の向上をはかる。	新規	・ゲームクリエイター学科においては、企業連携での学生作品に対する評価を明確にし学生へのフィードバックをした。
④ 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けがされているか	学科ごとのカリキュラムに沿って、科目ごとにコマシラスが作成され、全体・学期の到達目標、学習のねらい、定期考査基準が記入され、学生に動機付けがおこなわれている。また、科目コマごとに講義予定表作成し、予定に対して一日ごとに講義実績の振り返りを記入し、進捗の管理をしている。国際情報ビジネス学科における日本文化教育カリキュラムについては、月1回のミーティングにてカリキュラムの検討および検証を行った。清掃ボランティアやバス旅行などでは、グループワークを取り入れた、おもてなし講座(茶道体験)では、茶室での作法を通して、和の心を学ぶ機会となった。	4.00	進化	・日本文化教育カリキュラムの検証	継続 新規	・国際情報ビジネス学科でのグループワークにより、団体行動・協調性を養う機会を設けた。
⑤ キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか	本校におけるキャリア教育とは「社会に出る時に必要な能力」と定義した。学んだ技術を活かすためには社会に出たときに積極的に人と関わりをもって仕事をしていく必要がある。よって企業連携講座でもチーム制作の時間を増やした。また自分の作品を企業の方にプレゼンする機会を作り、作品に対するフィードバックをもらうなどキャリア教育の視点に立った授業をおこなっている。また入学時と卒業時に社会人として必要な挨拶やビジネスマナー等を身につけるための実践的な研修を行うことで、キャリア教育の視点に立った教育を実施している。	3.50	要改	・外部講師に依頼して挨拶やビジネスマナーなど入学時から社会的・職業的な自立に向けた基盤となる能力や態度を養う。 ・キャリア教育の実効性の検証	継続 新規	

⑥	授業評価の実施・評価体制はあるか	学期ごとに教員に対する授業アンケートを実施・集計し、年に3回上長と面談する機会を設け、上記アンケートの内容を必要に応じて非常勤講師にもフィードバックしている。シラバスやコマシラバスを作成し、適宜授業の内容や結果を把握し、授業の改善をする仕組みがある。	4.00	維持	・非常勤講師への各学期ごとの授業アンケートのフィードバックを行う。	新規	・各学期の授業アンケートを非常勤講師に確認してもらい、翌学期の準備に役立てるようにした。
⑦	育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	業界で活躍できる人材を育成するうえで必要となる専門の知識・技術を教える授業に関して、実際にその分野で就業していた人材または同等の力を示す資格取得者を担当に据えている。業界の知識・技術を陳腐化させないために最先端の業界知識・技術を学ぶため研修に参加し、報告書を作成し教員間で共有している。平成29年度は教員の退職に伴い今後もまた採用を継続していく必要がある。	3.78	要改 -0.22	・専任教員の採用 ・非常勤講師の採用の明確化 ・非常勤講師間協業	継続 新規	・シラバス・コマシラバスを活用し非常勤講師と授業内容や学生の状況を共有。
⑧	成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	期末に試験を実施し、授業態度、課題、出席率等を考慮して成績評価を行う。成績は、点数によりA~Dの4段階で評価をしており、100~80点でA、80~60点でB、60~50点でC、50点未満がD評価となっている。D評価は単位認定不可となる。D評価を除いた学生が、A:B:C=1:2:1の割合を目安にしており、D評価の学生は、再試験や再課題を行い再評価の機会を与えている。この基準は、授業担当教員全体で共有している。	4.00	維持			
⑨	資格取得の指導体制はあるか	各学科、取得目標資格の必須と推奨の区分がわかるように学生便覧に掲載している。業界就職するにあたって資格が重要になってくる情報処理学科に関しては、学科カリキュラムの到達目標に資格取得を記している。科目ごとのシラバスでは学期ごとに目標とする資格と目的を記して指導にあたっている。また合格実績や合格率を報告書にまとめている。	4.00	維持	・資格取得対策のためのツールを増やす	新規	・1年次に資格取得に集中できるよう取り組みにした。
			平均値				
			3.92				

基準大項目4 教育成果

点検・評価項目(中項目)	現状の説明	評価	状態	課題・方策 内容	状態	成果/効果	
①	就職率(卒業生就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか		3.50	要改 -0.5	・クリエイティブ業界を希望する学生への説明会を増やす。 ・デザイン学科1年生の就職導入講座の授業を3年ぶりに復活させ早めに対策を行う。 ・国際情報ビジネス学科については、就職率は向上しているが、卒業までに就職決定となるよう指導を強化する。	継続	・就職率90%以上(一般学生)。 ・クリエイターを希望する学生への説明会の増加および添削指導の実施。 ※一般学生 ゲームクリエイター学科 デザイン学科 情報処理科 ・国際情報ビジネス学科では、1年次から就職活動に向けた準備を早期に進める。
②	資格取得率の向上が図られているか		4.00	改善 +1.0	・国際情報ビジネス学科では、検定合格率の向上とともに、新規検定試験を導入した。	新規	・情報処理技術者試験の合格率向上 平成28年度 20% 平成29年度 30.7%
③	退学率の低減が図られているか		3.00	要改 -0.5	・STAI(State-Trait Anxiety Inventory(状態-特性不安検査))の結果から特性不安の結果が高い学生を早めに専任のカウンセラーにつなぐ。 ・新入生アンケートや研修の感想をチェックし早めの対策を心がける。 ・国際情報ビジネス学科では、学費支弁も含めたスケジュール管理および体調管理について、個別面談をとおして指導を行う。	継続	・General Health Questionnaire:GHQテストの実施
④	卒業生・在校生の社会的な活躍および評価を把握しているか		4.00	維持			
			平均				
			3.62				

基準大項目5 学生支援

点検・評価項目(中項目)	現状の説明	評価	状態	課題・方策 内容	状態	成果/効果	
①	就職に関する体制は整備されているか		4.00	維持	・外部講師による就職活動支援講座の実施 ・クリエイター希望の学生に対するセミナーの実施 ・国際情報ビジネス学科では、校内及び外部での説明会の機会を活用した就職活動を実施	継続	・ポートフォリオセミナーのセミナー回数の増加 ・国際情報ビジネス学科では、日本独特の就職活動に向けた書類作成の指導・添削を実施
②	学生相談に関する体制は整備されているか		3.66	要改	・教員のカウンセリングスキル向上のための研修を実施する必要がある。 ・専任のカウンセラーとのさらなる連携強化 ・留学生に対する入国管理局提出書類指導	継続	・教員研修にて「傾聴・共感的理解」スキル向上のため研修を実施
③	学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか		4.00	維持			
④	学生の健康管理を担う組織体制はあるか		4.00	進化	・専任のカウンセラーにも授業や行事への参加を促し、学生の状況を把握してもらい、情報を共有した。	継続	・専任の医師の常駐
⑤	課外活動に対する支援体制は整備されているか		4.00	維持			
⑥	学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか		4.00	維持			

⑦	保護者と適切に連携しているか	保護者に学生の進路に対する協力を依頼するため、6月と7月に就職保護者説明会を実施し、就職活動状況や企業の採用に関する動向を話す機会を設けている。学生の進路に向けた保護者との連携と協力の依頼が目的である。平成29年度から平日にも説明会を開催し、就職活動に向けた支援をお願いしている。	4.00	進化	・年1回だった保護者説明会を平日と合わせて2回実施することで参加率を高める。	新規	・保護者説明会を平日開催したことにより保護者の参加人数が増えた。
⑧	卒業生への支援体制はあるか	卒業後も転職相談等があった場合、必要に応じて個別に対応している。資格等のフォローは、テキストの紹介、受験案内を渡すなどの対応を行っている。さらにはfacebookやtwitterなどを活用して、卒業生とタイムリーに情報を共有できる仕組みを作っている。また同窓会の機能として、学園祭でブースを設置し、卒業生どうしがコミュニケーションをはかる機会を設けている。	3.50	要改 +0.5	・卒業後の資格のフォローアップ講座やセミナーの実施	新規	・SNSを利用した卒業生向けの求人情報の提供
平均値			3.89				

#### 基準大項目6 教育環境

点検・評価項目(中項目)	現状の説明	評価	状態	課題・方策		成果/効果	
				内容	状態		
①	施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4.00	進化	・常に良好な状態を維持するために、計画的に整備する。	継続	・26教師PCの入れ替え ・23教室椅子の入れ替え ・22教室モニターの入れ替え	
②	学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4.00	進化	・企業から依頼を受けた作品の制作。	継続 新規	・ITコンテストにて審査員特別賞を受賞 ・株式会社テクノブラッドからの依頼でVRコンテンツの作成をした。	
③	防災に対する体制は整備されているか	4.00	維持	・年間2回の防災プロジェクトの実施により、避難訓練実施後に検証会を行った。	継続 新規	・避難訓練の検証会の実施	
平均値			4.00				

#### 基準大項目7 学生の募集と受け入れ

点検・評価項目(中項目)	現状の説明	評価	状態	課題・方策		成果/効果	
				内容	状態		
①	学生募集活動は、適正に行われているか	3.75	要改	・計画から検証までの流れを確立し、その反省点を次の計画に盛り込んでいくシステムを構築している。 ・従来のパンフレットに加え、学科ごとの分冊版を制作し来校時に配付、説明。 ・来校者、入学者の増加はできたが、参加者1人ひとりへの満足度に対するアプローチは、改善の余地がある。 ・学校を知ってもらう「広報」への働きかけを強化し、認知度向上につなげることも必要である。	継続 新規	・H31年度入学生用パンフレット ・各学科分冊版パンフレット ・入学者増加	
②	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3.50	要改	・教務部からの早いフィードバックの仕組みを構築。 ・パンフレットやオープンキャンパスで、学年ごとの作品を展示。 ・オープンキャンパスにおいて、特に参加人数がピークになる日程に、各業界で活躍する卒業生からの説明会を開催。ピーク時には在校生スタッフを増員して対応。	継続		
③	入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか	4.00	維持	・留学生の選考において、「日本で就職するために頑張りたい」と考える学生と、「本校が求める」学生像とのマッチング強化のため、入学資格基準のほか、書類選考のチェック強化を図った。 ・学生レベルは年々上がっているものの、退学者は一定数いる状況。選考段階で確認できる方法を継続して分析していく。	継続		
④	学納金は妥当なものとなっているか	4.00	維持	・平成30年度入学生は1名を除き、1回目の納入は終了。2回目以降についても、納入の案内の徹底と遅れが予想される学生に対する相談・指導を徹底する必要がある。現2年生の指導も同様である。	継続		
平均値			3.81				

#### 基準大項目8 財務

点検・評価項目(中項目)	現状の説明	評価	状態	課題・方策		成果/効果	
				内容	状態		
①	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4.00	維持				
②	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4.00	維持	・各部署予算書の進捗管理の徹底。	新規		
③	財務について会計監査が適正に行われているか	4.00	継続	・学校法人会計基準を遵守していく。 ・学校会計ソフトの導入の検討を開始する。	継続 新規		
④	財務情報公開の体制整備はできているか	4.00	維持				
平均値			4.00				

基準大項目9 法令等の遵守

点検・評価項目(中項目)	現状の説明	評価	状態	課題・方策		成果/効果
				内容	状態	
① 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	法令、設置基準を遵守しており、専門学校として適正な運営をし、毎年度所管の神奈川県より現況調査を受けている。又、3～4年間隔で学校検査を受けている。法令や設置基準改正等については、その都度教職員に周知している。	4.00	維持			
② 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	志願者、学生、卒業生および教職員、学校関係者の個人情報は、個人情報保護規程に従い各部署で管理運用し、各部署のパソコンおよびサーバーには部外者が扱えないよう、セキュリティー対策を施している。また、本校Webサイトにはプライバシーポリシーを掲載し、個人情報入力フォームにはSSLを導入し暗号化している。	3.50	要改	<ul style="list-style-type: none"> <li>・留学生は個人情報に対する認知はほぼ皆無。広報担当者からの説明が必要。</li> <li>・携帯用の電磁記録記録媒体の取り扱い管理強化。</li> <li>・個人情報保護、特定個人情報管理規定と体制の整備。</li> <li>・個人情報に対するセキュリティー強化。(電磁記録媒体)</li> <li>・セキュリティー強化を考慮した学内LANの整備。</li> </ul>	継続 新規	
③ 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	校長と各部署長をメンバーとした自己評価委員会を組織し、自己点検評価を実施している。平成23年度からは私立学校等評価研究機構の点検ブックを参考にして点検項目を各部署に割り振り点検評価を行い、継続して改善を続けている。	4.00	継続			
④ 自己点検・自己評価結果を公開しているか	自己点検評価の項目を大項目、中項目、小項目に分け実施し、中項目の現状、大項目の自己評価と改善方策を報告書としてまとめ、理事会・評議員会で報告し承認を得ている。そして、この報告書の自己評価内容および改善方策を学校関係者評価委員会で審議する体制を整えた。また、平成25年度の評価結果より、本校Webサイトでの公開を開始している。	4.00	維持			
		平均値				
		3.87				

基準大項目10 社会貢献

点検・評価項目(中項目)	現状の説明	評価	状態	課題・方策		成果/効果
				内容	状態	
① 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか	企業や高等学校との連携講座を毎年実施している。高校生マンガ・イラストコンテストは11年となり、H29年度は新たに高校生ITアプリアイデアコンテストを開催した。平成27年度から、地域町内会、西区、学生の地域活性プロジェクトを発足し、平成29年度においても、年数回の「コラボミーティング」を実施した。昨年度と同様に町内盆踊りおよび健民祭のポスター制作を行った。また地域のキャラクターコンテストのデジタルデータ化を手伝った。国際情報ビジネス学科においては、日本におけるボランティアについて、1年生に対して事前教育を行った。また浅間町二丁目および三ツ沢競技場にて清掃ボランティアを行った。本校は、雇用促進への支援として、神奈川県及び厚労省から委託の形で職業訓練を実施してきたが、各コースの定員充足率が低いため講座実施を中止した。	3.60	要改	<ul style="list-style-type: none"> <li>・神奈川県内の高校生だけではなく、全国の高校生を対象としたコンテストを開催する。</li> <li>・定期的なミーティングに参加し、地域の活性化に対して学生がポスター制作やキャラクターコンテストの審査とキャラクターデジタルデータ化に携わる。</li> <li>・再就職希望の社会人や、非正規雇用の若年者がキャリアアップ、キャリアチェンジを行う際の、学び直しのための独自講座の計画</li> </ul>	継続 新規	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校生マンガイラストコンテスト開催。</li> <li>・高校生ITアプリアイデアコンテスト開催。</li> <li>・高等学校連携講座実施。</li> <li>・神専各の学び場実施。</li> <li>・学園祭に地域住民を招待。</li> <li>・地域活性プロジェクト実施。</li> <li>・国際情報ビジネス学科においては地域清掃活動の実施。</li> </ul>
② 学生のボランティア活動を奨励・支援しているか	社会人に必要な力を身につける目的で、ボランティア活動の意義を学生に伝えている。平成29年度は掲示板を有効活用し、ボランティアの案内を積極的に推奨した。	3.00	要改	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生にボランティア活動の意義を伝え、地域活動や災害支援などの活動を奨励していく。</li> <li>・ボランティア活動の紹介を積極的に行う。</li> </ul>	継続	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生掲示板に各団体から依頼のあった案内状を掲示した。</li> </ul>
		平均値				
		3.30				